

市政記者各位

平成 29 年 1 月 11 日
福岡市博物館



フィンランド独立 100 周年記念 フィンランド・デザイン展

14 日（土）開幕！前日にプレス内覧会、当日に開会式を行います

下記のとおり、「フィンランド・デザイン展」を開催しますので、是非ご取材いただきますようお願いいたします。

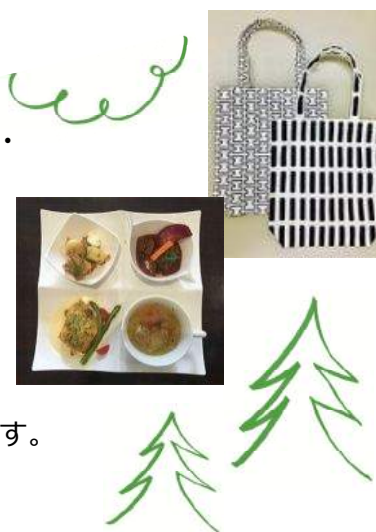
1. フィンランドの人と自然が育んだ豊かなライフスタイルに触れよう！

本展では、巨匠アルヴァ・アアルトやカイ・フランクをはじめとする著名デザイナーが生み出した、家具・食器・テキスタイルなど約 700 点を通じて、独立以前から現在までのフィンランド・デザインの歩みを紹介します。

- (1) 会 期：平成 29 年 1 月 14 日（土）から平成 29 年 3 月 20 日（月）
- (2) 休 館：月曜日（ただし、最終日 3 月 20 日は開館）
- (3) 観覧料：一般 1,400 円(1,200 円)、高大生 800 円（600 円）、小中生 500 円（300 円）
（ ）は前売り、20 人以上の団体、満 65 歳以上の割引料金

(4) おすすめポイント：

- フィンランドの魅力いっぱい！充実のグッズコーナー！
オリジナルグッズも満載！フィンランドをいつもあなたのお手元に・・・
- 2 階喫茶室とのコラボメニュー提供！
北欧フィンランドの料理を盛り合わせた特別メニューをご用意！
- フィンランドのライフスタイルに触れられるイベントを開催！
詳細は別紙チラシをご覧ください



2. プレス内覧会

担当学芸員が、一般公開に先駆けてフィンランド・デザイン展をご案内します。

- (1) 日 時：平成 29 年 1 月 13 日（金）16 時から 17 時まで
- (2) 場 所：福岡市博物館 特別展示室（2F）前にて受付

3. 開会式

- (1) 日 時：平成 29 年 1 月 14 日（土）9 時から 9 時 20 分
- (2) 場 所：福岡市博物館 グランドホール（1F）
- (3) 出席者：館長 有馬 学 ほか



左上（写真）：
椅子《Puppy》エーロ・アールニオ
2003 年 © Eero Aarnio 個人蔵

右（写真）
椅子《41 アームチェア バイミオ》アルヴァ・アアルト
1931-1932 年 アルテック © Artek 個人蔵

■お問い合わせ先

福岡市博物館 学芸課 福岡、末吉、福蘭 管理課 中山、岩佐
電話 092-845-5011 FAX 845-5019
〒814-0001 早良区百道浜 3-1-1



会期中イベント いずれも本展チケットもしくは半券が必要

講演会

「フィンランド通が語る、フィンランド・デザインの源とフィンランドの楽しみ方」

今日のフィンランド・デザインの源である、フィンランドの国土・風土や歴史、観光資源などについて、日本でも有数のフィンランド通が詳しくご紹介します。また、福岡空港就航2年目を迎える、マリメッコ社とのデザイン・コラボレーションでも話題の“空飛ぶフィンランド・デザイン” フィンランド航空の魅力についてもご紹介します。

[実施] JTB九州 [参加費] 無料

[講演者] 能登重好氏(フィンランド政府観光局(Visit Finland)日本代表)、堀田博之氏(フィンランド航空 西日本統括支店長)

[日時] 2017年1月14日(土) 13:00-15:00

[会場] 福岡市博物館 1F 講堂

[定員] 240名(要事前申込・応募多数の場合は抽選)

[申込締切] 12月22日(木)

会期中イベント応募方法

郵送、FAX、Emailのいずれかで受け付けます。イベント名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、参加人数(1件につき、最大2名まで受付可)を明記のうえ、下記までお申し込みください。

郵送先 〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-1 西日本新聞イベントサービス内「フィンランド展」係

FAX 092-731-5210 / **E-mail** finland@nishinippon-event.co.jp

※2名で応募される場合は、それぞれの氏名を明記してください。

※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。※当選者の発表は参加券の発送をもってかえさせていただきます。

※ご応募の際にいただいた個人情報、本イベントの連絡にのみ使用させていただきます。

イベントについてのお問い合わせは

西日本新聞イベントサービス内「フィンランド展」係 / TEL: 092-711-5491(平日午前9時半～午後5時半)

タイアップイベント

フィニッシュデザイン ナウ in なみきスクエア

[日時] 11月12日(土)～11月20日(日)

サンタの国のクリスマスイベント(コンサート・ワークショップ・クリスマス会)

[日時] 12月2日(金)・3日(土)

[会場] なみきスクエア / 〒813-0044 福岡県福岡市東区千早4丁目21-45

[問い合わせ] 子ども文化コミュニティ/なみきスクエア地球舞台プロジェクト事務局

TEL: 092-552-1540 / FAX: 092-561-9840 / E-mail: info@kodomo-abc.org

[主催] なみきスクエアみらいネットワーク

講座

「旅のプロが教える、フィンランド・北欧の楽しみ方」

フィンランド・北欧の魅力や楽しみ方を経験豊富なベテラン添乗員がお教えます。また、フィンランド・北欧の現地の基本情報や人気ツアーについてもご紹介します。

[実施] JTB九州 [参加費] 無料

① 夏の楽しみ方

ーベストシーズンの夏のフィンランドの魅力

[日時] 2017年1月21日(土) 13:00-14:30

[会場] 福岡市博物館 2F 多目的研修室

[定員] 15組30名様(要事前申込・応募多数の場合は抽選)

[申込締切] 12月22日(木)

② 秋の楽しみ方

ー8月下旬から鑑賞できるオーロラの魅力

[日時] 2017年3月11日(土) 13:00-14:30

[会場] 福岡市博物館 2F 多目的研修室

[定員] 15組30名様(要事前申込・応募多数の場合は抽選)

[申込締切] 2月22日(水)

ワークショップ

「親子で作ろうフェルトのアクセサリ」

フィンランドの冬の暮らしやフェルト作品を紹介する映像を見た後に、可愛いフェルトボールを使って、ネックレスなどのアクセサリを作ります。

[日時] 2017年2月12日(日)

1回目 10:30-12:00

2回目 14:00-15:30

[会場] 福岡市博物館 2F多目的研修室

[定員] 各回15組(6歳以上の子どもと保護者)

要事前申込・応募多数の場合は抽選

[参加費] 1,000円(親子1組)

※子どもが2人以上の場合は、1人につき追加1,000円

[申込締切] 1月25日(水)

ギャラリートーク

毎週水曜日14:00から本展担当学芸員によるギャラリートーク(約1時間)を開催します。申し込みは不要です(ただし本展入場者が対象)。

GOODS

会場物販コーナーでは展覧会オリジナルグッズのほか、フィンランドの有名デザインブランドの商品も販売します。この機会にぜひお求めください!



あなたも
展覧会に
参加しよう!



福岡市博物館
Fukuoka City Museum

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目1-1 | TEL: 092-845-5011 | FAX: 092-845-5019
http://museum.city.fukuoka.jp/

シーサイドももち
福岡タワー南



Eero Aarnio

椅子(Puppy)
エーロ・アーニオ
2003年
個人蔵
© Eero Aarnio

フィンランド独立100周年記念
100th Anniversary of Finland's Independence

Oiva Toikka

ガラス(バード)
オイバ・トイッカ
1997年
イッタラ
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
© Designmuseum
Photo: Chikako Harada



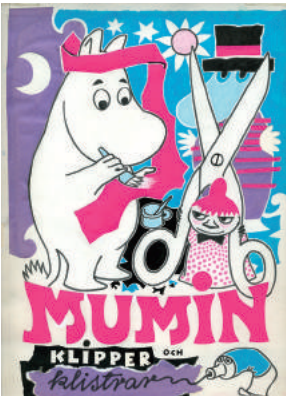
Fujiwro Ishimoto



陶製レリーフ(flower)
石本藤雄
制作年不詳
有限会社スコープ蔵
© Fujiwro Ishimoto

Tove Jansson

原画 書籍表紙
トーベ・ヤンソン
制作年不詳
ムーミン・キャラクターズ社蔵
© Moomin Characters™



Alvar Aalto

椅子(アームチェア 41 バイモ)
アルヴァ・アアルト
1931-1932年
アルテック
個人蔵
© Artek



Maija Isola

生地(ウニッコ)
マイヤ・イソラ
1964年
マリメッコ社
個人蔵
© Marimekko Corporation



福岡市博物館
Fukuoka City Museum

[シーサイドももち・福岡タワー南]

森と湖が育んだあたたかな暮らし

デザイン展

2017.1.14.sat～3.20.mon

午前9:30～午後5:30[入館は午後5時まで] | 月曜休館・ただし3月20日は開館

フィンランド独立100周年記念

フィンランド・デザイン展

「森と湖の国」フィンランドの人々は、夏は白夜、冬は極寒という厳しい自然と共に生き、その中から楽しみを見いだしつつ日々の暮らしを送ってきました。フィンランドのデザイナーたちも、「自然と人間との調和」を大切に、日常で使われ、今も世界中で愛され続けている、シンプルであたたかい作品を生み出してきました。本展では、2017年がフィンランド独立100周年となるのを記念し、独立以前から現在までの100年に及ぶフィンランド・デザインの歩みを紹介します。巨匠アルヴァ・アアルトやカイ・フランクをはじめとする著名デザイナーたちが生み出した、家具・食器・テキスタイルなど約700点を通じて、フィンランドの人と自然が育んだ豊かなライフスタイルをお楽しみください。

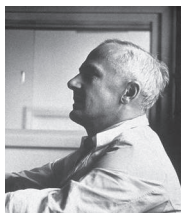
Heikki Orvola

キャンドルホルダー《Kivi》
ヘイッキ・オルボラ
1988年
イッタラ
© iittala



Kaj Franck

テーブルウェア《Kiltaシリーズ》
カイ・フランク
1953年
アラビア
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
© Designmuseo



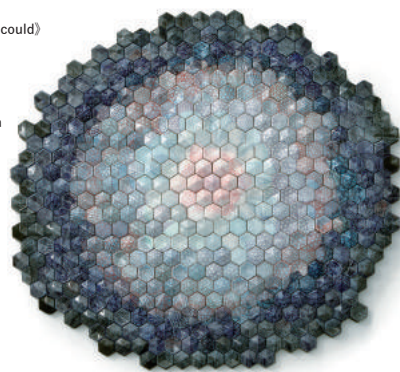
カイ・フランク (1911-1989)

『美しさの究極的な意味は必要な、機能的な、有用なものの中にある。日常のニーズに対応して作られるものに、デザイナー名は不要である。』

代表作はイッタラの「ティーマ」や「カルティオ」などの食器シリーズ。「フィンランド・デザインの良心」と賞賛される彼は、「誰にでも使いやすく、どんな家にもなじみ、収納しやすいデザイン」を追求し、機能的で美しい作品を多く生み出した。

Heini Riitahuhta

陶製レリーフ《Flower of could》
ヘイニ・リータフタ
2015年
作家蔵
© Heini Riitahuhta
Photo: Chikako Harada



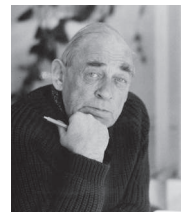
Harri Koskinen

ダイニングチェア
ハッリ・コスキネン
2015年
個人蔵
© Harri Koskinen
Photo: Chikako Harada



Maija Isola

生地《ウニッコ》
マイヤ・イソラ
1964年
マリメッコ社
個人蔵
© Marimekko Corporation



アルヴァ・アアルト (1898-1976)

『古いものは新しく生まれ変わりはしないが、完全に消え去ることもない。そして常に新しい形態に修復することが可能だ。』

「北欧モダンデザインの父」と呼ばれるアアルトは20世紀の偉大な建築家であると同時に、フィンランドの日常生活に溶け込み、今や定番となった家具や食器などを手がけたデザイナー。機能性と普遍性を兼ね備えた作品の数々は世代を超えて受け継がれている。

Alvar Aalto

椅子《スツール 60》
アルヴァ・アアルト
1933年
アルテック
© Artek

Eero Aarnio

椅子《Ball Chair》
エーロ・アールニオ
1963年
ナゼロ蔵
© Eero Aarnio



Erik Bruun

ポスター《自然保護団体》
エリック・ブルーン
1974年
作家蔵
© Erik Bruun



Photo: Ilpo Musto©

エーリック・ブルーン (1926-)

『こんなに仕事を長く続けられたのは、描くことが趣味でもあるから。』

『エリック・ブルーン 北欧フィンランド グラフィックの巨匠』
エリック・ブルーン著 / バイインターナショナル出版 (2015)

フィンランドを代表するグラフィック・デザイナー。大胆な構図で動植物を生き生きと表現した作品から、多彩な色使いのポップな作品まで、幅広いデザインは、広告ポスターや切手、ポストカードなどさまざまなツールで使用されている。

座ってみよう!
体感コーナー

有名デザイナーの作品に座りながら、フィンランドの景色を楽しめるコーナーが会場内に登場!

会場内体験コーナー
「パピーのぬり絵」

アールニオの「パピー」のぬり絵を会場内でお楽しみいただけます。完成したぬり絵は会期中、会場内で掲示します。あなたのセンスでパピーをカラフルに彩ってください!

Oiva Toikka

ガラス《バード》
オイバ・トイッカ
イッタラ
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵
© Designmuseo



マイヤ・イソラ (1927-2001)

『日常の雑事も、それがユニークだと思えば洗練されたものになるわ。』

『マイヤ・イソラ マリメッコのテキスタイル・デザイン』
ピエ・ブックス出版 (2006)

マリメッコを代表するデザイナー。フィンランドの自然だけでなく、異国の地への旅などからイメージを得て作られたファブリックは幾何学的で大胆なデザインが特徴。誕生から50年を経てもなお愛される「ウニッコ」が彼女の代表作。

フィンランドの四季



Visit Finland

春 kevät

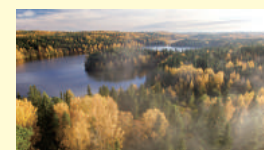
あたたかな雨が春を連れてきた。森には新しい緑が芽吹き、雪の下からは小さな花が顔を出す。うきうきわくわくした私の気持ちをそのまま表したみたい、マリメッコのお気に入りの服を着て街へ出かけよう。



Visit Finland

夏 kesä

Juhannus(ユハンヌス:夏至祭)は太陽に感謝するお祭り。美しく短い季節を楽しむためフィンランドの人々は森のサマーコテージで過ごす。そこは家族との大切な時間を快適に過ごすためのデザインにあふれている。



Visit Finland

秋 syksy

Ruska(ルスカ 紅葉)の風景は、やがて来る冬の前に自然が見せる束の間のカラフルな世界。黄・赤・茶・緑...幾重にも折り重なるその色合いは、フィンランド人の日常生活のあらゆるデザインに息づいている。



Visit Finland

冬 talvi

さっきまで降り続いていた雪がやんだ。しんと静まった夜にオーロラのカーテンがにぎやかに舞っている。ぱちぱちとはぜる暖炉の音を聞きながら、おじいちゃんからもらった大事なアアルトの椅子に座ってお気に入りの本を読む。

Finnish Design